

星塚敬愛園入所者自治会では、地域の皆さんとの「共生」「交流」「啓発活動」を活動の3つの柱としています。

地域住民との交流で転機となったのはゲートボールでした。「手袋軍団」と呼ばれ相手に足でボールを返されるなどされていた星塚チームが日本一を獲得すると、世間の見方が変わり交流が深まりました。今も多くの方々が敬愛園のゲートボール場を利用しています。

先日、「祖母から『らい病』がうつるから敬愛園に行くと言われた」という子どもがいまいた。今でも一般社会には差別・偏見が残っています。ハンセン病は「らい菌」による感染症ですが、感染力が非常に弱く、完

全に治る病気だということを知ってほしいです。

今、入所者は、敬愛園の職員の方々から、やさしい言葉と心・笑顔をもらいながら余生を送っています。私の願いは、入所者が今までの苦勞を忘れ、良い人生だったと思いつながり生涯を終えられること。自治会活動ができるうちに、今後の敬愛園のあり方など、決めておかなければならぬと思っています。

市民の皆さんにも、私たちが生きてきた歴史を知っていただきたいです。年に1回は敬愛園にいらしてください。私たちと交流しましょう。



星塚敬愛園入所者自治会長
岩川 洋一郎 さん (82 歳)

昭和 12 年屋久島生まれ。11 歳の時にハンセン病を発症し星塚敬愛園に入所。「星塚町の町民」のために施設や各機関との調整・交渉役を担う。敬愛園以外での勤務経験等も持つ。



今年で 41 回目を迎えた自治会主催の夏祭りには、約 2,000 人が訪れた。地域住民との交流を続ける岩川自治会長の想いとは …。

交流がお互いの 垣根を無くす



現在、星塚敬愛園では、ハンセン病の治癒した入所者 116 人（8 月 1 日現在）が、充実した医療・介護の提供を受けながら、「終の棲家」として穏やかな暮らしを送っています。その平均年齢は 87 歳を超え、ハンセン病の話を直接聞くことのできる機会が、年々少なくなっています。

現在の星塚敬愛園



療養所訪問での交流

7 月 31 日、市内を含む県内の子どもたちが星塚敬愛園を訪れ交流する、県主催の「親子療養所訪問」が開催されました。

「近くにあっても星塚敬愛園に来る機会はありませんでした」と始まる前に語ったのは、市内在住の瀬戸口香奈恵さん。一緒に参加した娘の皓華さんの

優しい心が育つ機会になればと思います。参加を決めたといいます。

参加者は、園内の施設を見学した後、納骨堂と慰霊碑を訪れ献花。社会交流会館では、職員の餅原美保子さんの説明を熱心に聞きながらハンセン病の歴史を学びました。

そして、グループに分かれて行われた入所者との交流の時間。初めは緊張していた子どもたちも入所者の笑顔に触れて緊張がほぐれ、昔のエピソードやハンセン病のことなど様々なことを質問していました。

「療養所訪問」が終わった後、皓華さんは、「入所者の方は、体が不自由でも気持ちが前向き

鹿屋市ハンセン病問題啓発講演会

市では、ハンセン病問題について理解を深めるため、啓発イベントを開催します。



映画上映

「ふたたび swing me again」

※ハンセン病患者とその孫の交流を描いた映画

ハンセン病問題に関する講演

日時

10 月 19 日（土） 13:30 ～（予定）

場所

リナシティかのや 3 階ホール

※鹿屋市ふれあい福祉まつり（仮称）と同時開催

料金

無料

市保健相談センター Tel 0994-41-2110

だと思いました。もっとハンセン病のことを勉強したいです。」と話してくれました。

次の世代にハンセン病問題のことを伝え、同じ過ちを繰り返さないためにも、私たちはその歴史を学んで交流を続けていかなければなりません。

親子療養所訪問に初参加した、野里町在住の

瀬戸口 香奈恵 さん（左）
皓華 さん（右）
（小学 4 年生）



国立ハンセン病療養所星塚敬愛園歴史資料館

社会交流会館 星塚の歴史

（星塚町 4204）

平成 26 年にリニューアルオープン。園内で過ごした人々の苦難の歴史を今に伝える資料やパネル、実際に使われた道具等が展示され、ハンセン病問題について学ぶことができます。



9 月 30 日まで
「風見治遺作展」
を開催中

●開館時間 9:00 ～ 16:30

●休館日

土・日曜日、祝日、年末年始

●入館料 無料

社会交流会館 星塚の歴史

Tel 0994-49-2500

「研修活動等でも活用してください」と語る学芸員の石井千尋さん。昨年赴任し、資料収集や調査研究を行っている。



敬愛園に残る歴史を訪ねる



火葬場
（3 代目）

昭和 58 年～平成 14 年に使用され、平成 8 年までは入所者による火葬業務が行われた。



納骨堂
（初代）

寄付金をもとに入所者の奉仕で昭和 14 年に完成。3 年で 161 柱もの遺骨が納められた。



収容門

観音開きの鉄扉があったこの門からは、多くの患者が収容された。今は門柱のみが残る。



御歌碑

貞明皇后が昭和 14 年に職員へ向けて詠んだ歌を顕彰。園内一高い「望郷の丘」に立つ。